

職員による自己評価

A環境面

現在の利用者数や活動内容に充足したスペースである。

室内の活動スペースに段差はない。

事業所のある2階へは階段だけである。

B児童への支援内容

利用者のニーズや課題を分析し、特性に配慮した活動をしている。

C関係機関との連携

必要時には連携し情報共有などができる。

D保護者への説明責任・信頼関係

子どもの様子や活動内容を送迎時や連絡帳・メールで保護者に伝えたり聞いたりし、互いの情報交換ができています。

E非常対応

対応マニュアルの確認や全員避難訓練は実施できている。保護者への周知が不十分などところがある。

保護者による評価

A環境面

活動スペースは十分である。

2階の事業所までのスロープやエレベータの設置はない。

B児童への支援内容

活動内容はおおむね満足している。

地域や他の児童クラブ等との交流機会はない。

C事業所からの情報発信

保護者会の開催はない。

保護者同士の連携が難しい。

保護者同士の交流は求めているのでなくてよい。

ホームページやお便りなどによる積極的な発信が不十分である。

D非常対応

防災訓練の実施は知っている。

事業所内での分析

【共通点】

- 活動内容に関しては高評価である。固定化しないようにこれからも工夫が必要である。
- 連絡帳などにより日頃の情報交換はできているが、ホームページなどによる発信は十分ではない。
- 災害や緊急時・防犯など安全面について訓練は実施しているが、保護者への周知が不十分などところがある。

【相違点】

分析・検討してみても…

事業所の強み

○児童・保護者のニーズに合わせて柔軟に支援している

事業所の改善点

- 学校や他の児童クラブ等との情報交換について
- 災害・緊急時の対応、防犯
- 活動プログラムについて
- 活動内容や様子などの発信について

事業所の改善への取り組み

- 学校・関係機関と連携がとれる関係を作る。
- 災害・緊急時の対応を具体的に考える。訓練を定期的実施する。
- 職員の専門性や支援力の向上のために勉強会を定期的開く。
- 活動内容を吟味し十分な準備と工夫をする。
- 活動の様子などを発信する回数を増やす。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

評価結果で改善すべきところはしっかり取り組む。
職員全員で課題に取り組み、支援の質の向上に繋がるように努める。

事業所名 プレップサポートセンター和田町
担当者 管理者 細谷由夏